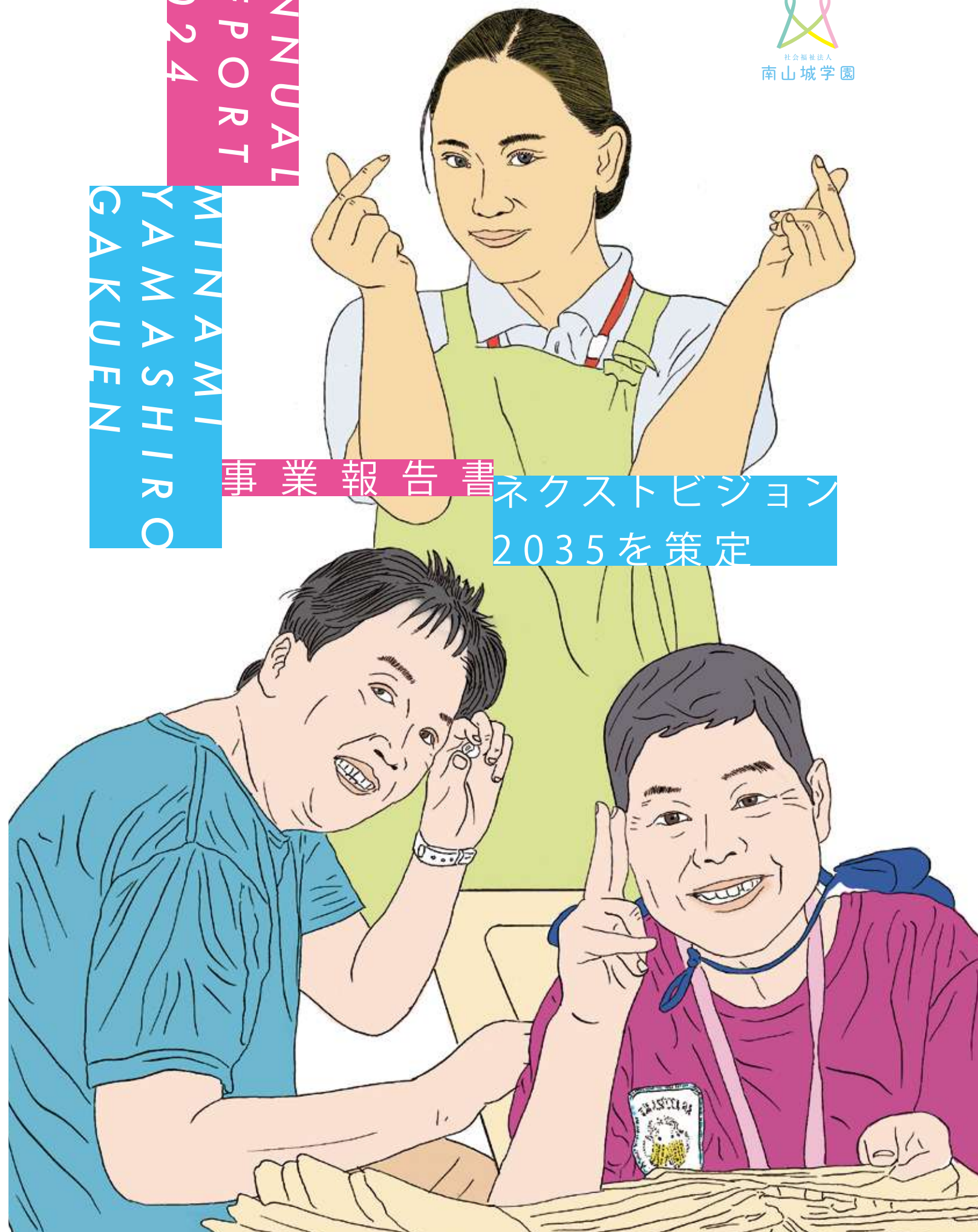


ANNUAL
REPORT
2024

MINAMI
YAMASHIRO
GAKUEN

事業報告書
ネクストビジョン
2035を策定



2024年度 事業報告書 発行:社会福祉法人 南山城学園 〒610-0111京都市城陽市雷野狼谷2-1 TEL.0774-52-0425 <https://minamiyamashiro.com>



基本理念

01 利用者様の尊厳を守り、幸福を追求する。
私たちは利用者様の人としての尊厳を重んじ、一人ひとりのかけがえのない人生に寄り添い、ともに幸福を追求します。

02 地域のニーズにパイオニア精神で取り組み、「共生・共助」の地域づくりに貢献する。

私たちは、社会福祉法人として培ってきた専門性やノウハウを最大限に活かし、地域社会における福祉ニーズに率先して取り組み、課題解決に努めます。
また、すべての方が住み慣れた地域で互いに寄り添いながら暮らせる福祉社会の実現に貢献します。

03 いつでも誰もが安心して利用できる福祉サービスを創造する。
一人ひとりの特性に応じた適切なサービスを提供するため、さまざまな事業を展開し、安心して利用できる新たな福祉サービスを創造します。

7つの誓い ～職員がめざすべき行動基準～

01 質の向上に向けた意欲と実践
私は、利用者様の幸福のため、利用者ニーズに即応して、結果を出せるよう自らが行動を起こします。

05 職員の支援と育成
私は、職員として、ともに学び、成長することを、互いの喜び・楽しみとします。

02 ルールと正確性の重視
私は、利用者様、職員など関わるすべての人々の安心・安全のため、ルールを守り正確性を重視します。

06 チームワークとリーダーシップ
私は、チームの和を大切にしつつ、立場や状況にふさわしいリーダーシップを発揮します。

03 利用者理解と個別サービスの追求
私は、利用者様の尊厳を守り、利用者様の理解に努め、質の高い個別サービスを追求します。

07 専門性の向上と活用
私は、職務に必要な専門的、組織的能力を身につけ、発展させ、活用します。

04 セルフィメージの向上と影響力
私は、社会福祉の一端を担う者としての自覚と自信を持ち、人々に前向きな影響をもたらします。

法人概要

事業内容	第一種・第二種社会福祉事業 (障害・高齢・保育・生活困窮者) 公益事業(診療所・研修事業)	経常収入	約47億円(令和6(2024)年度実績)
設立	1965(昭和40)年2月	事業内容	京都府城陽市/宇治市 /京都市伏見区・中京区 /大阪府三島郡島本町
代表者	理事長 磯 彰格		障害31か所/高齢3か所/認定こども 園1か所・保育3か所など
職員数	約800名(令和7年4月1日現在)		

事業領域

自分らしく
幸せに暮らせるよう、
生活全般をサポート
[対象]主に知的障害のある方や
介護保険適用の高齢の方

障害者支援施設 円(まどか)
障害者支援施設 紡(つむぎ)
障害者支援施設 和(なごみ)
障害者支援施設 魁(さきがけ)
障害者支援施設 翼(つばさ)
障害者支援施設 凜(りん)
障害者支援施設 光(ひかり)
障害者支援施設 輝(かがやき)
知的障害者グループホーム
ショートステイ ふらっぶ
介護老人保健施設 煌(きらめき)

子どもたちの
主体性を育む教育・保育・療育
[対象]乳幼児

認定こども園 ゆいの詩
こども発達支援 Cocoro島本
もりの詩保育園
小規模保育 そらの詩保育園
小規模保育 るりの詩保育園
企業主導型保育 すずの詩保育園

医療と福祉の連携により
安心・安全をサポート

[対象]主に施設利用者様
南山城学園診療所
和光診療所

住み慣れた地域での
暮らしを続けられるよう、
相談に対応

[対象]障害のある方や高齢の方、
またご家族の方

山城北園域障害者総合相談支援センター ういる
障害児(者)地域療育支援センター ういる
障害者生活支援センター はーもにい
障害者支援センター じゃすと
障害者就業・生活支援センター はびねす
京都府地域生活定着支援センター ふいっと
障害児(者)相談支援センター リーふ
障害児(者)相談支援センター ういっしゅ
若年者等就労支援拠点 サザン京都
居宅介護支援事業所 すまいる
京都市障害者休日・夜間相談受付センター

多様なニーズを受け止め、
充実した日中活動の場を提供

[対象]地域で暮らす障害のある方や高齢の方
知的障害者デイサービスセンター あっぶ
身体障害者デイサービスセンター すいんぐ
就労移行・就労継続A型支援事業所 さびゅいえ
障害者デイサービスセンター わこう
児童日中一時支援事業所 ちえりー
デイセンター ふらっぶ
高齢者デイサービスセンター すまいる
通所リハビリテーション 煌(きらめき)

変わらぬ理念、変わりゆく実践－〈不易流行〉で紡ぐ、南山城学園の60年とこれから－

2025年2月2日、社会福祉法人南山城学園は創立60周年を迎えました。この節目の年を迎えることができましたのも、日頃より温かく見守り、支えてくださっている利用者様、ご家族の皆さま、地域の皆さま、そして関係機関の皆さまのお力添えの賜物です。心より御礼申し上げます。

この10年間、私たちは「ネクストビジョン2025」（2015年4月～2025年3月）を指針とし、「創造性の発揮（Creativity）」「経営資源の有効活用（Resource）」「暮らしの質の向上（Quality）」の3つの柱を軸に、持続可能な経営と地域共生社会の実現に取り組んでまいりました。障害のある方や高齢の方々の暮らしを支える多様なサービスの展開、異年齢保育を中心とした子育て支援の充実、新たな地域課題への挑戦、そして人材育成やICT・ロボット技術の活用など、時代の変化に柔軟に対応しながらも、地域社会の中で

ともに生きるという共生・共助の理念は一貫して変わることはありませんでした。

そして今、「ネクストビジョン2035」（2025年4月～2035年3月）を新たに策定し、次の10年に向けた歩みを始めています。人口減少や福祉ニーズの多様化、技術革新など、社会はこれまで以上に大きな変化を迎えようとしています。

しかし、どのような時代においても、利用者様の幸福を追求するという福祉の本質は変わりません。だからこそ私たちは、〈不易流行〉の精神を胸に、変わらぬ理念を礎にしながら、変化を恐れず挑戦し続けてまいります。

60年の歩みを力に、これからの10年も、地域の皆さまとともに、誰もが安心して暮らせる社会の実現に向けて邁進してまいります。今後とも、変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



社会福祉法人 南山城学園
理事長 磯 彰格

MESSAGE
AKITADA ISO

「ネクストビジョン2035」を策定

当法人では、法人創立50周年となった2015年2月に、中長期の経営計画として「ネクストビジョン2025」を定めました。ネクストビジョン2025は、「長期ビジョン2025」と「中期経営計画2020/2025」から構成されます。2015年以降10年間に予想される経営環境を見据えて、法人理念を実現するために目指すべき方向性を示し、計画に基づき実行してまいりました。このたび、法人創立60周年と「ネクストビジョン2025」の終期を迎えることから、次期の「ネクストビジョン2035（長期ビジョン2035と中期経営計画2030）」を策定しました。

NEXT VISION 2035

「長期ビジョン2035」は、引き続き、法人理念を実現するために目指すべき方向性を示すものとして、右記の3本柱とします。

Quality

暮らしの質の向上

「私たちは、関わるすべての人々の尊厳を守り幸福を追求し、お一人おひとりの理解に努め、寄り添いながら質の高い個別サービスを提供していきます。」

Resource

経営資源の有効活用

「私たちは、これまで培ってきたノウハウや人財を活用し、地域福祉の充実・発展を通じて、共生・共助の地域づくりに貢献していきます。」

Creativity

創造性の発揮

「私たちは、これから先の時代が求める福祉課題に対応し、関わるすべての人々が自分らしく暮らせるよう、新しい福祉サービスを創造し、実践していきます。」

「中期経営計画2030」は、前5カ年の行動目標である「中期経営計画2025」を引き継ぎ、2025年4月～2030年3月までの5カ年の行動目標を定めたものです。人口減少や物価高騰などの社会情勢の変化に対応するとともに、地域共生社会の実現に向けて、複雑化・複合化する地域生活課題への対応など、社会福祉法人に求められる役割を一層果たすべく、本計画を実行していきます。

中期経営計画（Plan）		2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	SDGsにおける目標
暮らしの質の向上	1 人材確保・育成・定着と生産性向上 地域の人々の暮らしを支え、質の高い福祉サービスを提供し続けるため、働きやすく働きがいのある人事制度の構築や研修制度の見直し、AI・ICTの活用による生産性の向上等を通じて、人材確保・育成・定着の更なる強化を図る。	人事制度・研修体系の見直し検討	新研修体系に基づく研修開始				 成長・雇用  イノベーション
	2 障害者支援施設とグループホームの再編 法人が60年にわたり培ってきた障害分野のノウハウをもとに、重度障害者の支援強化や地域移行の推進など、将来のニーズを見据えた施設の役割や機能を整理し、再編する。	情報分析 制度動向の把握	再編計画の策定				 健康・福祉
	3 社会的養育事業の展開 社会的養護を必要とする子どもや家族に適切な支援が届く重層的な施策の構築が求められるなか、新たに乳児院を開設し、医療的ケアや発達障害などのニーズにも対応する。	情報分析 制度動向の把握		工事～開設準備	乳児院の開設		 健康・福祉
	4 こども事業の拡充と医療的ケアの強化 子育て世帯が増加する地域での保育や学童ニーズに加え、専門的な支援ニーズに対応するため、発達障害に特化したクリニックと、医療的ケアに対応できる認定こども園を開設する。また、教育分野と連携し、放課後等デイサービスや学童保育を開設する。	学童保育・放課後等 デイサービスの開設		工事～開設準備	クリニック・認定 こども園の開設		 健康・福祉  教育
経営資源の有効活用	5 研究・研修事業の強化 スーパーバイザーの外部派遣をはじめ、法人が60年にわたり培ってきたノウハウ・資源・人材を地域社会へ還元し、福祉人材の育成に貢献する。また、産官学連携による共同研究を強化し、新たな福祉サービスを創出するとともに、広く社会に発信する。		既存事業の継続 （スーパーバイザーの派遣等）			研究・研修センターの開設	 成長・雇用  パートナーシップ
	6 災害対応の強化 災害発生時の利用者支援体制を強化するため、BCPの見直しや自家発電設備の整備を進める。また、地域支援体制の強化として、福祉避難所の運営訓練の継続実施や専門人材の配置を進める。	BCP見直し・自家発電 設備の整備・福祉避難 所の運営訓練の実施	専門人材の配置				 健康・福祉  エネルギー
創造性の発揮	7 地域生活課題への対応強化 地域共生社会の実現に向けて、社会福祉法人の役割を一層果たすべく、孤独・孤立や生活困窮、多世代交流等、複雑化・複合化する地域生活課題に「地域における公益的な取組」の実践を通じて対応する。	情報分析 制度動向の把握	既存事業の発展 (生活困窮者・ ひきこもり支援等)				 貧困  まちづくり

長期 ビジョン	中期経営計画（Plan）		実施状況（Do）	評価（Check）
	項目	内容（数値・実施時期等）	内容	
創造性の 発揮	1 共生のまちづくりへの参画	福祉分野だけでなく、教育・農業・地場産業・住民組織など幅広い関係者との繋がりを一層強化する。 あわせて、障害・介護・保育の種別の枠組みを超え、生活困窮者や就職氷河期世代などの支援を包括した、地域共生社会実現の一翼を担う。	コロナ禍において中止または縮小していた彩雲祭などのイベントを再開するとともに、龍谷大学と連携した「木工福プロジェクト」や「ほんず活動」で制作した葦簀を奥貴船「兵衛」の川床に活用するなど、新たな取組も開始した。また、2024年9月に京都市と「孤独・孤立に関する連携協定」を締結し、地域共生社会の実現に向け多様な関係機関との連携・協働を進めた。	新たな取組を開始できた一方で、事務局内に設置した「地域共生プロジェクト」では今後の方向性を見出せず休止した。次期中期経営計画において「地域生活課題への対応強化」を盛り込み、一層の取組を進める。
	2 生産性の向上	急速に進化するロボット・ICT技術を活用し、効果的・効率的な業務運営を行う。また、利用者様の安全確保や健康管理面での先進技術開発に積極的に参画する。	オンライン会議が普及・定着した。また、雇用契約書・給与明細書の電子化、業務記録システムの入替、見守りセンサーの導入など、様々な技術導入が進んでいる。先行した施設の取組が他施設に普及しつつある。	会議のための移動時間や作業工程の短縮など、業務効率化に一定の成果があった。一方で、システム運用を支える業務の増大を如何に克服するかが課題である。
	3 研究と実践の連係	産官学の連携を一層強化し、サービスの質の向上のための共同研究・発信を行うことにより、福祉業界の認知度向上・新たな担い手育成を図る。また、全国の他法人と連携し、高齢知的障害者支援に関する共同研究に参画する。	川崎重工業、龍谷大学等との「KOUFUKU（工・福）連携事業」をスタート、2022年10月より試験的にロボットの導入を開始した。「国立のぞみの園」と高齢知的障害者支援での共同研究や職員派遣の受入れに取り組んでいる。さらに、産官学の連携をより一層強化するため、龍谷大学と地域連携協定を締結した。	「KOUFUKU（工・福）連携事業」は、部品の納入がストップしており、また販売先の確保に至らず、活動が停滞している。
経営資源の 有効活用	4 魅力ある職場づくり	育児や介護などライフステージに応じた雇用形態の転換など柔軟な人事制度を創設するとともに、エキスパート→スーパーバイザーへの昇格制度など、職員の能力と意欲を高める人事制度を構築する。また、福祉人材上位認証を高いレベルで更新継続する。	2023年4月よりスーパーバイザーを2名配置し、PEP3学習会、他法人へのコンサルティングなどに取り組んだ。2024年度より4週8休制に移行した。2024年度に福祉人材上位認証の更新通知を受けた。また、2024年度に各都道府県2名の強度行動障害支援の中核的人材を輩出した。	スーパーバイザーについては一定の役割を果たしている。4週8休制への移行は大きな混乱なく運用できた。次期中期経営計画においても、人事制度の見直し等を盛り込み、より魅力ある職場づくりに取り組む。
	5 人材の確保と育成	学生や一般求職者から選ばれる魅力ある法人・事業所を目指す。そのために、学卒者には複数資格取得→相談職への育成制度、一般求職者には多様な働き方に応じた人事制度を確立する。	2020年度よりスーパーローテーション制度を導入し、相談職も含めた早期育成の仕組みを導入した。また、採用強化の観点から2024年度より初任給の引き上げを行った。加えて、EPAでの外国人採用を開始し、2024年12月に2名が着任した。	スーパーローテーションの目的の浸透、育成体制の強化が課題である。また、人材確保を一層強化すべく、次期中期経営計画において、給与の引き上げも含めた人事制度の見直し等を盛り込む。
	6 就職氷河期世代など、幅広い就労支援ニーズへの対応	生活困窮者・障害者の枠組みを超えて、カフェ、食品加工、農作業など幅広い「就労支援サービス」を提供するとともに、福祉的就労・中間就労から一般就労への移行実績を大幅に増加させる。	地域福祉支援センター宇治小倉で「若者等応援事業」を受託し地域若者サポートステーション事業と連携し、夜カフェ等の事業に取り組んだ。	各種事業の相乗効果により、地域若者サポートステーションでの相談件数は全国的に見ても高い水準を維持している。
暮らしの 質の向上	7 障害者の多様な生活ニーズ、介護ニーズに対応する「暮らしの場」の整備	障害者の高齢化に伴う介護重度化に対応できるよう、施設のハード整備をすすめるとともに、グループホームを含めた地域での暮らしを支える環境を整える。また、利用者様の高齢化重度化に対応する日中プログラムの抜本的見直しを行う。	老朽化した「紡」（旧・樺寮）を個室化改修、一部増築を行った。また、重介護化した利用者様の「煌」への異動を積極的に行い、適切な介護提供体制を確保している。	紡の改修により住環境の改善を図ることができた。高齢化への対応も含め、ニーズに対応する「暮らしの場」の整備のため、次期中期経営計画において、障害者支援施設とグループホームの再編を盛り込む。
	8 リハビリ機能を活かした高齢者・障害者の自立支援の強化	老人保健施設・通所リハのリハビリ機能を更に強化し、地域の高齢者ニーズに積極的に応えとともに、障害者の自立支援にもリハビリを積極的に活用する仕組みを構築する。	老人保健施設「煌」を超強化型とし、リハビリ機能を強化した。障害者施設においては、口腔ケアを充実させ、食欲の増進、施設臭の改善などの効果があった。	超強化型は、在宅復帰率をはじめ加算要件が厳しいなか、高い稼働率を維持している。今後は老健の役割である在宅復帰を更に推進する必要がある。
	9 異年齢保育を柱とする子育て支援の充実強化	異年齢保育を保育の仕組みの中心に据えて、保育の質を充実させる。また、法人が障害者支援で培ってきたノウハウを活用し、子育て支援事業を拡充するとともに、既存の相談事業との連携を強化する。	2022年4月に「認定こども園 ゆいの詩」を開園。異年齢保育を基本としたプロジェクト保育の特色をより明確にした。また、同6月には「こども発達支援 Cocoro島本」を開設した。2026年から本格実施となる「こども誰でも通園制度」を2024年から試行的事業として「もりの詩保育園」で実施した。	認定こども園の役割である地域における子育て支援に更に取り組む必要がある。また、ゆいの詩との連携を含め、Cocoro島本のサービス提供体制の強化が課題である。

円 まどか 居住支援

障害者支援施設

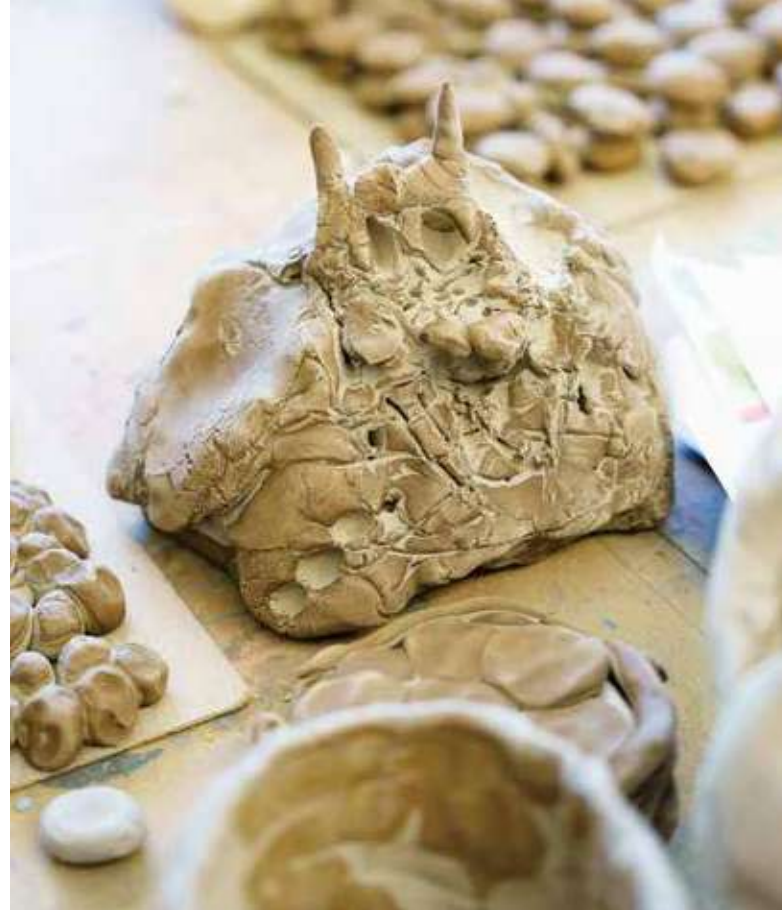
知的障害が重く、意思表示が困難な方々を対象に、一人ひとりの特性に応じたきめ細かな支援を生活の全般にわたって行っています。



ふるいにかけて堆肥を仕上げる

完熟発酵堆肥が完売

10月には城陽五里五里の丘で開催された城陽市緑化フェスティバルに参加。日中活動で作った完熟発酵堆肥を販売したほか、地元の生花店のご協力のもと、寄せ植え体験を実施しました。堆肥20袋、寄せ植え18個がすぐに完売となる盛況ぶり、利用者様が地域とつながる機会となりました。好評につき、「円」の堆肥は、旬の駅ならやま本店でも常時販売中。また、富野小学校の放課後子ども教室「富野っ子わくわく教室」の園芸活動に使っていただく地域貢献プロジェクトを立ち上げ、次年度に向けて準備を進めています。



粘土室には利用者様の作品が所狭しと並ぶ

粘土作品を通じて地域と交流

入所者様の高齢化が進むなか、「円」では、日中活動や余暇の充実を継続的に支援しています。特に力を入れているのが創作活動で、入所者様は通称「粘土室」と呼ばれるアトリエで粘土や絵画の創作に取り組み、それらの作品を発表する場が、住民の皆さまと交流し、地域社会において存在を示す大切な機会となっています。

2024年9月、地元の方々にでぎわうショッピングモール「アル・プラザ城陽」にて「まどか展」を開催。2日間で延べ129名にご来場いただき、「すごい作品」「グッズにしてほしい」等のエールが多数寄せられました。



まどか展

事業内容：生活介護60名・施設入所60名・短期入所4名
利用者層：重度知的障害のある方
所在地：城陽市富野狼谷（本園）
施設長：：松井一真

紡 つむぎ 居住支援

障害者支援施設

障害のある方々が高齢期を迎えてからの生活の場を整備し、健康管理に十分な配慮をしながら、安全で尊厳のある日々の暮らしを支えています。



廃材から新たな価値を生み出すアップサイクル

木工活動は廃材に付加価値を与えて新たな製品へと転換するアップサイクル×福祉の活動として、持続可能な地域社会に寄与する可能性を秘めています。今後はマルシェ等の安定した販路を確保し、供給できる体制を整えるとともに、薪ストーブが多く使用される京都府山間部に薪を安価で提供するなど地域課題に対応する、木工福の連携プロジェクトとしての展開を図っていきます。



龍谷大学サステナビリティDaysで木工製品を販売

地域協働型日中活動へとモデルチェンジ

入所者様の平均年齢が70歳を超えるなか、人生の円熟期にふさわしい暮らしの場を提供するには、ユニットケア（少人数単位でのケア）が不可欠です。その実践に向けて、2020年度に「和」の一部が「紡」に生まれ変わりました。

「紡」では、入居施設の個室化と環境整備を進めるとともに、利用者様が地域に貢献し、生きがいを感じることでできる日中活動の創出をめざしています。利用者様が楽しみながら一定の運動量を確保でき、社会参加につながる活動として、2022年度より廃材を利用した薪やスウェーデントーチなどの木工製品づくりに取り組んできました。

2024年度はこの木工活動を龍谷大学政策学部の学生と協働で実践する取り組みがスタート。大学キャンパスに隣接する森から間伐材の提供を受けるとともに、新製品の企画や販売方法等について学生たちと意見交換を行い、事業所完結型から地域協働型日中活動へとモデルチェンジを図りました。



充実した日中活動が生きがいを創出する

事業内容：生活介護37名・施設入所36名・短期入所1名
利用者層：知的障害のある高齢の方
所在地：城陽市富野狼谷（本園）
施設長：村地正浩

和なごみ

居住支援

障害者支援施設

障害のある方々が高齢期を迎えてからの生活の場を整備し、健康管理に十分な配慮をしながら、安全で尊厳のある日々の暮らしを支えています。



地場産業を支える「ほんず活動」の新たな可能性
「和」では、入所者様が日中活動の継続を通して、地域課題の解決に貢献できるプログラムとして「ほんず活動」に取り組んでいます。伝統的な碾茶（抹茶の原料）の本簾覆下（ほんずおおいした）栽培に用いられるよしずをよしの茎を編んで作る活動で、2024年度は納品先の茶農家が新たに2軒増え、「紡」と連携しながら165枚を納品しました。良質のほんずが評判を呼び、奥貴船で川床を営む料亭にも納品されています。



城陽市名産の碾茶栽培に欠かせないほんず

認知症ケアの技法を日々の支援に

こうした取り組みの一方、「和」では、認知症を発症した利用者様への支援手法であるユマニチュードを全職員が習得し、日々の支援への浸透が図られています。

清仁福祉会せいじん保育園との交流も例年通り継続。日中活動で利用者様が製作しているアロマサシェや音楽療法を子どもたちが体験しました。

また、地域に開かれた福祉施設をめざすべく、フラワーアレンジメントや陶芸教室等の地域ボランティアも積極的に受け入れるなか、2024年度は京都の人気ラーメン店「キラメキノトリ」の社会貢献活動の一環で職人2名が来園し、利用者様が食べやすくするボランティアの方々の調理補助のもと、ラーメンをふるまっていただきました。



入所者様がプロの味を堪能

魁さきがけ

居住支援 通所支援

障害者支援施設

一般企業等での就職がむずかしい方たちが地域で働きながら暮らすことを目標に、基本的な生活スキルを身に付け、就労の継続につながる支援を行っています。



レモン栽培

後継者不足の地域課題の解決に協力

城陽市・青谷は香り高い大粒のブランド梅「城州白」の産地として知られますが、悩みは後継者不足。その課題解決に取り組む「青谷まちづくりの会」に「魁」の職員も参画。梅が不作の年に農家の収入を助けるレモン栽培の普及などに協力していく考えです。



赤紫蘇の葉はジュースの原料に

要となるファーム移転

40種類近くの野菜を栽培期間中は農薬を使用せずに育てている当法人の自家農園を2024年4月、「魁」のスタッフ为中心となり、京田辺から城陽の本園にほど近い城陽市・青谷へ移転しました。田園だった土地の水はけを改善し、畑にするための土壌づくりを行い、玉ねぎ、唐辛子、紫蘇、さつまいもの栽培からスタート。2025年春にはレタス、ラディッシュ、小松菜、水菜なども収穫でき、夏から秋に向けて新たな品種の栽培も行っていく予定です。

青谷ファームは利用者様に幅広い就労機会を提供するとともに、当法人の経営するカフェ（P28）で使用される新鮮な野菜を届けています。また、唐辛子を食品加工会社へ卸すなど、今後のさまざまな事業の要として機能していきます。



上質の唐辛子を収穫できた

事業内容：生活介護54名・施設入所60名・就労継続支援A型11名・就労継続B型15名・短期入所1名
利用者層：就労を希望する障害のある方
所在地：城陽市富野狼谷（本園）
施設長：長野美香

翼

つばさ
居住支援

障害者支援施設

重い知的障害と自閉症等の発達障害、行動上の課題を併せもちながら、青年期を迎えた方たちを主な対象とする個室ユニット型の施設です。



年齢にふさわしい身だしなみを
「翼」では、35名の利用者様が個室に居住しながら少人数のユニットで生活環境を共有されています。
その暮らしの質を向上すべく、毎月の衣類チェックで、衣類の破損や汚れ、季節にあった衣類かどうかを確認。利用者様の意向をふまえながら、年齢にふさわしい身だしなみのあり方を考え、実践しています。



衣類チェック

入所者のひとり暮らしを実現

個々のニーズに応じた個別支援の充実に努めるなか、2024年度は入所者様の中に自宅に帰ってひとり暮らしを希望する方がおられたことから、そのご希望をかなえるべく、成年後見人と連携して検討を重ねました。圏域の基幹相談、居宅介護事業所、行政等と協働し、地域における支援体制を構築。継続性のあるひとり暮らしを具現化しました。



利用者様によるユニット清掃

短期入所受け容れへのアプローチ

また、府下の複数の機関と連携し、短期入所の利用ニーズが高い方々へのアプローチに取り組みました。
緊急時の対応や長期利用も含め、2024年度は8名の方への新たな支援につながり、地域のなかで生活をされている方々の安心を支える取り組みとなっています。

事業内容：生活介護35名・施設入所 35名・短期入所 2名
利用者層：重度知的障害のある方
所在地：城陽市観音堂甲畑
施設長：西田武志

凜

り
ん
居住支援

障害者支援施設

障害が重くても適切な支えがあれば地域のなかで暮らせる方々が、その力を十分に発揮しながら地域社会の一員として生活することを支援しています。



ハザードマップでリスク管理

入所者様に安全な毎日を過ごしていただけるよう、「凜」では、危機管理の強化に取り組んでいます。2024年度は前年のヒヤリハットの分析をふまえ、施設内21ヵ所、施設周辺7ヵ所について、事故の起きやすい時間帯、想定されるリスク（ドアの開閉、転倒、車との接触等）、必要な対応をまとめたハザードマップを独自に作成。職員間で情報の共有化を徹底しました。



ハザードマップでの情報共有

身だしなみチェックシート

また、利用者様が安心して住める環境づくりに向けて、居住環境と身だしなみの11項目からなるチェックシートを新たに作成。衣服のボタンの欠落や汚れ、手足の爪、靴下のたるみ、居室の整理整頓等の確認を毎月、ダブルチェックで積み重ねながら、支援者が新しい職員あるいは地域社会の誰であっても、利用者様が身だしなみと生活環境を整えられる仕組みづくりに努めました。



ショートステイのためのベッドメイクも念入りに

誰もが参加できる日中活動の場を

誰もが参加できる日中活動の場の創出という今後の課題に向けて、他施設との協同分業に取り組んでいきます。

事業内容：生活介護40名・施設入所 40名・短期入所 2名
利用者層：地域移行を希望される重度知的障害のある方
所在地：城陽市富野東田部
施設長：赤塚信隆

光 ひかり

居住支援

障害者支援施設

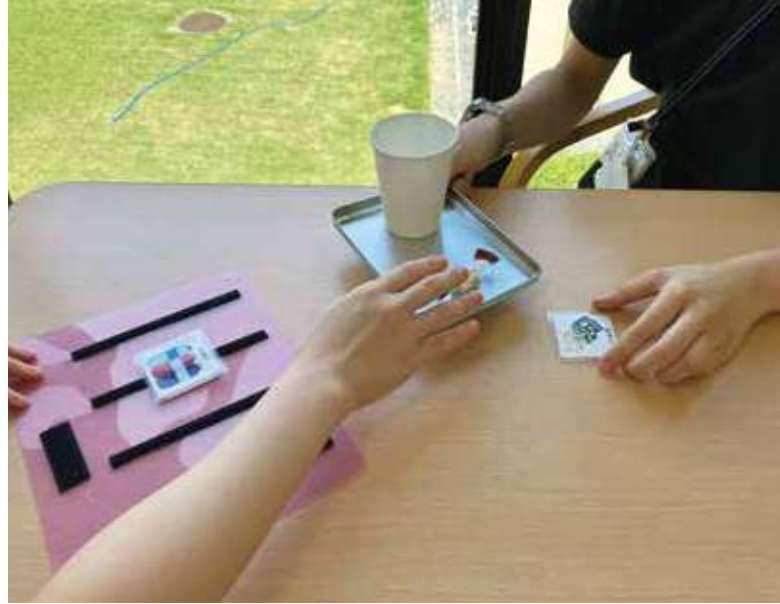
重い知的障害に自閉症を併せもたれている方たちが、意思疎通や意思決定を行えるようになるための専門的な支援を行っています。



荷物チェックはタブレットで

ICT機器の活用による業務の効率化

利用者様の高齢化が進み、今まで以上に一人ひとりのケアに要する時間の確保が必要になるなか、簡略化すべき業務をICTを活用して簡略化することが求められています。例えばショートステイの利用者様の荷物チェックに要する時間は、タブレットを使用した荷物チェックアプリを導入した結果、手書きでメモする作業に比べ1回約30分もの短縮につながりました。2024年度は男性の利用者様のみを対象としましたが、今後は施設全体でアプリの導入を行い、より多くの時間を利用者様のケアに還元していきます。



PECSによるコミュニケーション支援の職員トレーニング



絵カードを音声機能付きのiPadで示すこともできる

コミュニケーション支援における専門性の強化

「光」では、約7割の利用者様が絵カードで意思疎通を図るPECS(ペクス)※を使用されています。2024年度は利用者様との日々のコミュニケーションの実践に加え、早期の技術向上をめざして職員同士でトレーニングを行ったことで、利用者様がより短期間で自発的な要求スキルを習得できるようになりました。

「光」のこの取り組みは「魁」「円」等、法人内の他施設にも浸透しはじめ、専門性の強化が図られています。

※PECS: Picture Exchange Communication Systemの略。

事業内容:生活介護42名・施設入所 42名・短期入所3名
利用者層:重度知的障害のある方
所在地:京都市伏見区日野
施設長:高阪篤史

輝 かがやき

居住支援

障害者支援施設

ちえりー

通所支援

児童日中一時支援事業所

高齢期を迎えた知的障害のある方が現在の生活を継続できるよう支えながら、趣味や余暇活動の充実を図っています。また、「ちえりー」では、障害のある18歳以下の方に休日に安心して過ごせる場を提供します。



リハビリプログラムで転倒回数が減少

高齢期に入った入所者様は心身の機能が低下し、介護の必要な方のリハビリが課題となっています。「輝」では、専門家(理学療法士、作業療法士)の助言のもと、この課題に取り組み、日中活動の運動メニューにゲーム感覚で行えるリハビリプログラムを採り入れたところ、入所者様の転倒の減少につながりました。



リハビリにゲーム感覚を採り入れた

小学生とボッチャで交流

また、恒例となった春日野小学校との交流会を2024年9月・10月に開催しました。4年生約40名を対象に、障害とは何かについて職員がパワーポイントを用いて説明した後、「輝」で施設内の見学会を行い、児童と利用者様が一緒にボッチャに挑戦し、子どもたちの歓声に利用者様の笑顔が見られました。

2025年2月には、辰巳保育園の園児をお招きし、利用者様とともにバレンタインデー向けの工作を楽しみました。



子どもたちがボッチャに挑戦

事業内容:生活介護58名・施設入所 58名・短期入所7名・児童日中一時支援8名=ちえりー
利用者層:知的障害のある高齢の方・知的障害のあるお子さん
所在地:京都市伏見区日野
施設長:吉岡弘樹

知的障害者 共同生活援助 グループホーム 城陽

知的障害をもちながらも、社会への
適応能力を身に付け、地域での生活が
可能となった方々が、安全に安心
して暮らすための共同生活の場を
運営しています。



アロママッサージ

休日のバリエーション

余暇の時間をより充実して過ごしていただくため、自治会等
を通じて利用者様のご希望を集約し、アロママッサージや音
楽の演奏会等の取り組みを年4回実施しました。ひとりでは
休日の過ごし方の選択肢が少ない方の参加を想定していた
ところ、買い物など他に予定のある方たちの参加も得られ、
休日の過ごし方のバリエーションを豊かにするきっかけと
なっています。



回収された食品

フードドライブで地域に貢献

グループホームでは、地域貢献活動として食品ロス削減に継
続的に取り組んでいます。2024年度は法人内のフードロスイ
ベントを年2回催行し、利用者様と職員が各施設の朝礼に参
加して食品回収の意識を高めるとともに、保護者会への呼び
かけも行いました。また、城陽市のフードドライブ事業に協力
団体として参画し、地域とのつながりを深めながら、銀行や郵
便局に集められた食品の仕分け作業を実施し、前年を上回る
量の食品を回収できました。



演奏会

身だしなみの意識改革

グループホームでの生活のルーティンとして職員は利用者様
の身だしなみのチェックを行います。利用者様がより主体
的に取り組めるよう、2024年度は身だしなみや整理整頓の
基準を利用者自治会の勉強会のテーマとしていただくなど、
利用者様の自立に向けた意識改革を進めました。

事業内容: 共同生活援助 42名
利用者層: 知的障害のある方
所在地: グループホーム長池・観音堂ホーム・鷺坂ホーム
室長: 小関徹史(城陽グループホーム支援室)

煌
きらめき

介護老人保健施設

すまいる
居宅介護支援事業所

心身をリフレッシュできる快適な空
間でのリハビリを通して、在宅復帰へ
の意欲を喚起し、地域社会の一員とし
て活力ある生活を継続できるよう支
援しています。「すまいる」では在宅の
方の方ケアマネジメント事業も展開
しています。



居住支援
通所支援

相談支援



介護教室による新たなアプローチ

「介護教室」が地域の交流の場に

地域ぐるみの介護予防には、閉じこもりがちな高齢者がそこ
に出向き、介護予防の知識や技術を習得できる地区集会所
単位での「ふれあい生きいきサロン」のような場が求められて
います。そこで、2024年度は取り組みの幅を広げて「介護教
室」を4回開催。介護に関する知識や技術等をお伝えすると
ともに、参加された住民の皆さまがおしゃべりを通して日常
に役立つ生活情報を交換しあえる居場所をつくり、高齢化へ
の理解を深める機会としていただきました。

リハビリスペースのマシンを無料開放

短期集中リハビリテーションや認知症集中リハビリテーショ
ンに取り組む「煌」では、介護予防のノウハウを地域住民の
方々に還元すべく、「健康クラブ」を年16回(毎月第2・第4土
曜)送迎バス付きで開催し、職員の指導のもとで通所リハビリ
スペースのトレーニングマシンをお使いいただいています。
また、毎年恒例となった講師をまねいての「青空ヨガ教室」を
開催し、30名近い地域の皆さまにご参加いただきました。



健康クラブで楽しく介護予防

EPA介護福祉士候補者の受け入れを開始

当法人のノウハウを他国へと技術移転し、世界の福祉水準
の向上に寄与する思いのもと、「煌」では2024年12月より、
EPA(経済連携協定)にもとづく介護福祉士候補者の受け入
れを開始。フィリピン人2名が職員とともに働き、年長者を敬
う態度など異文化にふれることで、職員にも日々よい刺激と
なっています。



家族介護が原則のフィリピンでは高齢者施設自体が少ない

事業内容: 介護老人保健施設100名・通所リハビリ30名
利用者層: 高齢の方
所在地: 城陽市長池五社ヶ谷
事業総括: 大矢真弓

あつぶ

通所支援

知的障害者デイサービスセンター

障害のある方が地域のなかで自立した日常生活を営めるよう、日中活動の多彩なプログラムを中心に支援を行っているデイサービスセンターです。



木製のボタンを一個一個磨く

年齢や個性に応じたプログラム

「あつぶ」には、支援学校を卒業して社会参加をめざす方から高齢の方まで幅広い年齢層の方が来られます。こうした地域の利用者様の居場所、そして心のよりどころとなることを大切に、年齢や障害特性に応じた日中活動のプログラムをご用意しています。

企業からの委託による製品の袋詰め、シール貼り、園芸や木工、バターゴルフなどのスポーツ、カラオケなどのレクリエーション、入浴サービス等の多彩なプログラムから、利用者様一人ひとりが自分に合ったプログラムを選択。プログラムに人を当てはめるのではなく、その方に合うプログラムを随時追加していくことを通して明るく楽しいデイサービスの提供に努めています。

作業完成品の企業への納品に際しては、利用者様にも同行いただくことで、地域社会の一員としての働きがい高めるとともに、「あつぶ」についての理解を促進する機会としています。



利用者様それぞれのペースで作業に集中

利用者様とご家族の満足度向上のために

利用者様、またご家族の満足度向上のため、保護者交流会やアンケートのほか、個別のヒアリングを年2回実施。利用者様の希望によりかなった日中活動へとプログラムの修整を随時検討し、必要な支援を提供することで、年間平均稼働率は91.3%と高い水準を維持しています。

事業内容：生活介護20名
利用者層：知的障害のある方
所在地：城陽市観音堂甲畑
センター長：西田武志

すいんぐ

通所支援

身体障害者デイサービスセンター

すまいる

通所支援

高齢者デイサービスセンター

地域福祉支援センター城陽は二つのデイサービス支援センターの運営を通じて、利用者様一人ひとりの生きがいの創出とご家族の介護負担の軽減に努めています。



ICT化をより質の高いサービスの創出につなげる

送迎システムのICT化

2021年度より一部施設で導入が始まったBuddycom※を「すいんぐ」「すまいる」の両デイでは入浴介助の際の時間管理やスタッフ間の情報共有等に活用しています。

また、「すまいる」では、通所施設ならではのICT化として送迎システムソフトを新たに導入。送迎計画の効率化による送迎範囲の拡大の検討などに役立てています。

※バディコム：スマートフォンやタブレットを無線機として利用できるIP無線のアプリ



健康体操教室が定着

健康体操教室で地域に貢献

「すいんぐ」と「すまいる」が開催している健康体操教室が地域に根付いてきました。「すいんぐ」の回はレッドコード（運動治療器具）を用いた運動で肩こりを解消し体幹を鍛えるプログラム。「すまいる」の回は認知症予防運動「コグニサイズ」を中心とするメニューを地域の皆さまと職員が一緒に行い、活気ある時間を共有させていただきました。延べ参加者数、リピーター数の増加に伴い、実施回数を年6回（隔月）から2024年度は10回に増やしました。



こども食堂で提供する野菜の下準備

デイサービスの利用者様がこども食堂に協力

「すまいる」の利用者様を中心に、こども食堂あんさんぶるで提供する野菜の下準備を行っていただきました。主婦としての長年の経験を発揮する女性、ピーラーを初めて手にする男性などさまざまですが、「久々に切ったけど、おもしろいわ」などと楽しみながら地域課題の解決に協力する活動となりました。

事業内容：生活介護20名＝すいんぐ・通所介護25名＝すまいる
利用者層：身体障害および機能訓練を希望する障害のある方
＝すいんぐ／65歳以上の方（第1号被保険者）・40歳以上65歳未満の特定疾病を罹患をされている方（第2号被保険者）＝すまいる
所在地：城陽市枇杷庄
センター長：小原裕典

ういる 相談支援
障害児(者)地域療育支援センター
はーもにい 相談支援
障害者生活支援センター

地域福祉支援センター城陽は、山城北圏域の中核を担う障害者相談事業所として、療育および発達障害のある方のための「ういる」、障害のあるすべての方に対応する「はーもにい」を運営しています。



こども食堂を週2回開催

地域福祉センター城陽では、地域貢献の一環として子どもの居場所づくりに取り組み、こども食堂「ダイニングあんさんぶる」を継続的に開催。小学校1年生以上の児童、保護者、地域ボランティア、スタッフを含め、30余名が毎週第2・第4金曜日に集う場として定着しています。



こども食堂夏祭り

発達障害当事者の交流会

「ういる」では、京都府下において発達障害当事者やその家族が集う機会が少ない課題をふまえ、発達障害者圏域支援センター(地域支援マネジャー)の取り組みとして、発達障害当事者の交流会を主催しました。

会話の必要がなく参加しやすいプログラムとしてヨガを企画したところ、京都府南部地域を中心に6名の参加を得、キャンドルを焚いた落ち着いた空間で支援者をまじえてヨガを体験できたと、参加者から喜びの声が聞かれました。



ヨガ体験

社会参加としての芋掘り体験

「はーもにい」では、城陽市委託事業として、社会参加が困難な精神障害や知的障害の方たちが集える体験型イベントを例年開催しています。2024年度は地域の農家のご協力のもと、芋掘り体験を年2回実施。参加者には、久しぶりに外出する方や何年も土に触れていなかった方もおられ、汗をかきながら掘ったサツマイモを笑顔で持ち帰られました。



芋掘り体験

利用者層:障害児(者)=ういる/障害者=はーもにい
所在地:城陽市枇杷庄
センター長:小原裕典

わこう 通所支援
障害者デイサービスセンター
リーふ 相談支援
障害児(者)相談支援センター
ふいっと 相談支援
京都府地域生活定着支援センター

地域福祉支援センター醍醐は、主に知的障害のある方が地域において安定した生活を送るための支援を行う「わこう」と「リーふ」、福祉的支援を必要とする矯正施設出所者の地域生活を支える「ふいっと」を運営しています。



産直野菜が地元で好評

「わこう」では、「カフェぷらんたん」との連携により、デイサービスの利用者様が農園で栽培した野菜を「カフェぷらんたん」で販売したほか、消臭剤づくりや箸袋づくりなど、より多くの利用者様が参加できるよう作業内容の充実を図りました。野菜の直売は地域の皆さまから好評を得、今後は利用者様が店頭に立って販売できる環境を整えていきます。

カフェと連携して野菜を産直



福知山市と合同研修会

矯正施設出所者の地域生活を支えるには、福祉のみならず司法・行政等関係機関との連携が欠かせません。これら関係機関との顔の見える関係づくりを目的に、「ふいっと」では「京子(強固)の会」を立ち上げ、さまざまな研修、座談会等を主催してきました。2024年度は新たに福知山市と連携し、職員が市に出向いての合同研修会を実施しました。引き続き、京都北部地域との連携強化を進めていきます。



和光祭

和光祭を5年ぶりに開催

地域にひらかれた施設の象徴ともいえる和光祭を2024年10月、5年ぶりに開催。コロナ前の夜のお祭りを、イベントもりだくさんの昼のお祭りにリメイクし、約400名の地域のみなさまにご来場いただきました。



事業内容:生活介護35名=わこう/計画相談=リーふ/
地域生活定着支援=ふいっと
利用者層:すべての障害のある方=わこう・リーふ/
触法障害・高齢者=ふいっと
所在地:京都市伏見区日野
センター長:小林稔

さびゅいえ 通所支援

就労移行・就労継続支援A型事業所

はびねす 相談支援

障害者就業・生活支援センター

じゃすと 相談支援

障害者支援センター

グループホーム 共同生活援助 宇治小倉

地域福祉支援センター宇治小倉は、知的障害のある方の就労支援に力を注ぎながら、計画相談、グループホーム、ショートステイの運営にもたずさわっています。



地域交流イベント「さびゅ祭り」の準備

地域のより身近な存在となるべく、例年開催している「さびゅ祭り」の来場者が2023年の約100名から約150名に増加。にぎやかな地域交流の場となるなか、当日のボランティアスタッフとしてサザン京都(P25)の相談者の方々にもお手伝いいただきました。



さびゅ祭り

就労定着支援ツールの活用

「はびねす」では、障害のある方の就労支援において、利用者様の変化を可視化し、効果的かつ手厚い個別支援を行えるよう、「SPiS(エスピス)」※を活用したモデル事業を実施してきました。日々の体調や感じたこと、仕事の様子をSPiS上で6ヵ月間記録していただき、支援者が内容を確認しながら毎日やりとりを行った結果、利用者様の自己開示が促され、支援者との信頼関係が深まり、就労継続につながる変化が見られました。また、SPiSの分析機能を活用することで、より適切な支援が可能となりました。

SPiSの活用には、専門家によるスーパーバイズを月1回継続し、支援者間での情報共有や課題整理、対応の検討を行いました。このスーパーバイズは、支援の質を維持・向上させる、職員の成長の機会ともなっています。

※SPiS:精神障害者のための就労定着支援ツール



SPiSを活用した就労支援

メイクアップ講座

「さびゅいえ」では、就労移行の訓練生、就労継続支援A型の利用者様を対象に、一般就労に向けた準備の一環として、POLA W-ingの協力によるメイクアップ講座を開催。普段からメイクアップをすることで気分を高め、働く意欲の向上の一助としていただきました。



メイクアップ講座

事業内容:就労移行・就労継続支援A型各10名、就労・生活相談、計画相談、共同生活援助20名(うち短期入所2名)
利用者層:知的・精神・発達障害のある方
所在地:宇治市宇治蔭山
センター長:下前拓也

ふらっふ 通所支援

デイセンター

ういっしゅ 相談支援

障害児(者)相談支援センター

地域福祉センター島本は、通所での生活介護に加え、一般就労のむずかしい方に就業機会を提供している「デイセンターふらっふ」を中心に、ショートステイ、計画相談等に幅広く対応しています。



親子パン教室



ふるさとセット

障害理解啓発セミナー

「ういっしゅ」では、地域のみなさまや支援者を対象に、障害への理解を促す啓発セミナーを年2回、企画運営。「こどもの発達理解と支援」「成年後見制度」の2テーマに計38名の方にご参加いただきました。

生成AIを活用した個別支援計画作成

地域福祉支援センター島本では、個別支援計画の質の向上・平準化・効率化をめざし、生成AI(ChatGPT)を活用した取り組みを進めています。2024度は、外部コンサルタントの協力のもと、福祉現場向けの「個別支援計画作成AI」を開発し、個人情報保護や著作権リスクに配慮した、安心・安全な運用体制を整えました。

生成AIチャットボット※は、知識提供型の「ベーシック版」、職員に気づきを促す「コーチング版」の2種類を開発し、支援計画作成を補助するだけでなく、職員の内省や成長を助けるしくみも導入。新たな技術の導入を積極的に進め、「人を支えるのは人しかいない」という福祉の理念の実現に役立てていきます。

※チャットボット:質問に自動で回答するプログラム

パン工房から広がる地域のつながり

2019年にセンター1階に開設したパン工房では商品改良や販促ツールの整備を進め、ふるさと納税返礼品への登録に向けた準備を行いました。

新たに取り組んだ小野薬品工業株式会社の社員食堂での催事販売(月1回)では、就労継続支援B型の利用者様が焼き上げた食パンが毎回即完売となりました。

年2回開催している親子パン教室も、毎回多くの申し込みがあり、地域とのつながりを深める機会となっています。

事業内容:生活介護25名・就労継続支援B型15名
=デイセンターふらっふ/短期入所1日10名
=ショートステイふらっふ/計画相談=ういっしゅ
利用者層:すべての障害のある方
所在地:大阪府三島郡島本町
センター長:奥村一貴

サザン京都

若年者等就労支援拠点

「サザン京都」は、働くことに悩みを抱えている15歳から49歳までの方を対象とした地域若者サポートステーション京都南(厚生労働省委託事業)、中間的就労支援(京都府認定就労訓練事業)、ひきこもり支援(重層的支援体制整備事業)、生活困窮者支援等、「はたらく」と「はたらきつつける」をサポートする就労特化型の相談支援事業所です。



88名が新たに就職

2024年度にサザン京都を利用して就職した方は88名でした。相談件数は、地域若者サポートステーション2497件、生活困窮者909件、相談支援員による引きこもりへのアウトリーチ(訪問)161件にのぼっています。



サザン京都の“卒業生”による座談会

サザン京都を利用して就職した方をゲストスピーカーとして招き、就職活動や仕事の実際について話を聞く場として、少人数にグループ分けをした座談会を企画しました。サザン京都の現在の利用者様から、「少し勇気をもらえた」「自分も頼れるところは頼りながらがんばろうと感じた」などの前向きな感想が聞かれました。



座談会

夜カフェ・ZOOMカフェを継続

サザン京都の利用者様の情報交換や就労意欲の喚起、ひきこもり等にある方の居場所づくり等を目的に、「夜カフェ」とオンライン版の「ZOOMカフェ」を継続して実施。2024年度は計22回、151名(男性91名、女性60名)がカフェを訪れました。すでに就職された方も引き続き参加できるため、利用者様同士のコミュニケーションが就労意欲の向上のみならず職場定着の一助ともなっています。



夜カフェ

事業内容:相談支援

利用者層:若年で無業の方、就職氷河期世代、ひきこもり状態の方、生活困窮の状態にある方等
所在地:城陽市寺田
センター長:下前拓也

ゆいの詩 子育て支援

認定こども園

「子どもが、まんなか！」を合言葉に、自分で考え、挑戦していく主体性を育む教育・保育を実践しながら、子育て世代が安心して暮らせる地域の拠点となることをめざしています。



Cocoro 島本

こども発達支援

発達のゆっくりなお子さんを対象に、個別や集団での遊びを通じて、「楽しい」をたくさん経験し共有しながら、すくすくと成長できるようサポートします。



医福連携による発達相談

子育てに悩みや不安を抱いておられる保護者を対象に、関西医科大学総合医療センター小児科の医師による発達相談を定期的に実施しました(2024年度は4回)。

地域の子育て世代の交流を促進

「ゆいの詩」では、地域の子育て世代の交流や居場所づくりに向けた取り組みとして、子育てサロン(参加者のべ36名)や育児相談(のべ23名)を開催。また、島本町にお住まいの高齢者に年2回、モーニングを提供し、当法人の保育について理解いただく場としました。



定着してきた子育てサロン

5歳児が地域をお掃除

自分たちの過ごす地域をきれいにすることの意味を知る体験として、園を代表して5歳児が「島本町をピカピカにしよう」と地域の掃除に出かけました。落ち葉や小さなガラスの破片などを見つけると、箒とちりとりできれいにし、園に帰ってからは、3歳児や4歳児に経験したことを話して聞かせてくれました。



地域清掃も子どもを主役に

ゆいの詩

事業内容:教育・保育

利用者層=乳児・幼児=1号認定6名/2・3号認定150名

所在地=大阪府三島郡島本町

園長=山崎里美

Cocoro島本

事業内容:児童発達支援

利用者層=市町村の健診や発達相談を通じて療育を勧められた概ね2歳から6歳の児童 10名

所在地=大阪府三島郡島本町(認定こども園ゆいの詩に併設)

管理者=河野翔太

もりの詩保育園 子育て支援 小規模保育園 そらの詩 小規模保育園 るりの詩

異年齢保育、主体性を育てるプロジェクト保育、一日を見える化するドキュメンテーション等を特色とする3つの保育園を運営しています。



地域ぐるみの子育て支援

「るりの詩保育園」では毎月、社会福祉協議会のボランティアの方に絵本の読み聞かせをしていただいています。クリスマスには、ミュージックベルの音色に聴き入り、一緒に演奏したり、マジックショーで目を丸くしたり、地域の方たちとの交流を楽しみました。



クリスマス地域の方たちと楽しむ

このほか、各園とも月1～2回、園庭開放や子育て支援イベントを実施し、地域との交流を図りました。

また、保育における地域連携の一環として、法人本部と連携しながら、インターンシップや実習生を受け入れ、中学生チャレンジ体験と高校生職業体験(計15名)に対応するなど、保育の仕事を幅広く伝えました。



誰でも通園制度にいち早く対応

誰でも通園制度を見据えた試行的事業

京都市乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)※が2026年度から実施されるのを見据え、「もりの詩保育園」では、2024年10月よりこの事業を導入。同世代のお子さんに関わりながら成長し、集団生活に早く慣れるなどのメリットに加え、保護者の方のレスパイトにもなっています。

※生後6ヵ月から満3歳未満の未就園児が月一人当たり10時間を上限として9時半から12時まで通園できる事業



感謝の気持ちを絵に描いて渡す

勤労感謝の心を育む

「そらの詩保育園」では、働く人への感謝の心を育むため、園児の散歩コースにある交番や青果店と交流の輪をひろげています。青果店では、勤労感謝のプレゼントを手渡し、購入した野菜でスタンプを作りました。季節ごとの野菜や果物を見ることが、食育にもつながる取り組みとなりそうです。

事業内容:保育60名=もりの詩／
小規模保育12名=そらの詩／19名=るりの詩
利用者層:乳児・幼児=もりの詩／
乳児=そらの詩・るりの詩
所在地:京都市中京区=もりの詩・そらの詩／
大阪府三島郡島本町=るりの詩
統括園長:吉田由季

MINAMI YAMASHIRO GAKUEN CAFE

2024年度 カフェ来客数19,123人

知的障害のある方々の働く場として、当法人では3つのカフェを運営しています。

ランチタイムを中心に多くの皆さまにご利用いただき、地域と施設を結ぶ役割を果たしています。



ぷちぽんとkitchen+farm

自家農園で育てた新鮮な野菜がとれるヘルシーなランチが地元で人気の野菜カフェです。プランターに花を植える緑化イベントやマルシェ、また、特別支援学校・支援学級の児童・生徒さんを対象とした「凧まつりinぷちぽんとカフェ」等を通して、地域にしっかり根をおろしています。

所在地:京都府城陽市富野東田部69番地1



カフェぷらんたん

光、輝、わこう、リーふ、ふいっと、ちえりーが集積する醍醐エリアの広い敷地の玄関口に建つ一軒家カフェです。テラス席からは樹齢70年の桜が見え、花見シーズンにはライトアップを行い、地元の多くの皆さまが訪れています。

所在地:京都市伏見区日野西川類4番地2

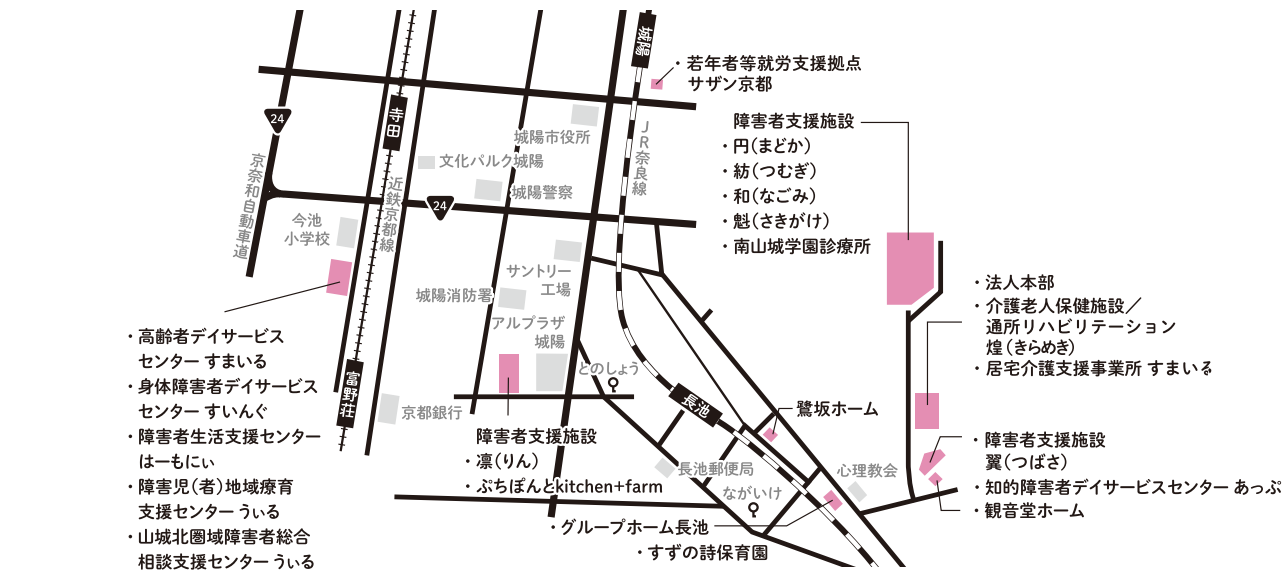


カフェさびゅいえ

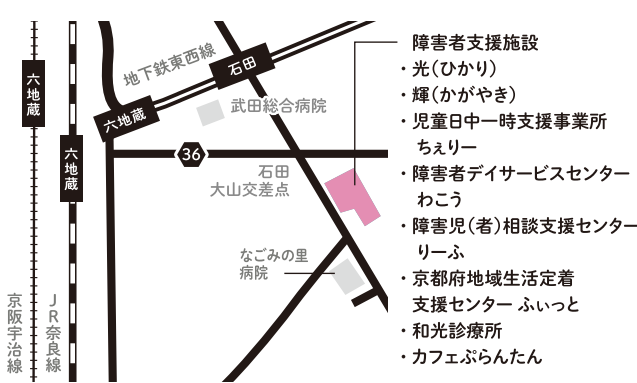
障害のある方々の就労訓練を兼ねて「さびゅいえ」が運営しているカフェと工房です。2023年度に城陽茶業組合と連携して抹茶を使用した商品開発に取り組み、発売に至った「ブルドネージュ」は2024年度も納品を継続し、ふるさと納税品の候補にあがるほどの人気です。2025年度には就労継続支援A型の利用者様が茶葉の収穫から行うことも検討されています。

所在地:京都府宇治市宇治蔭山9番地11

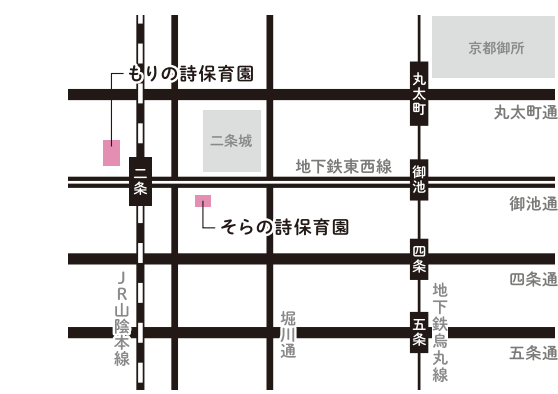
城陽エリア



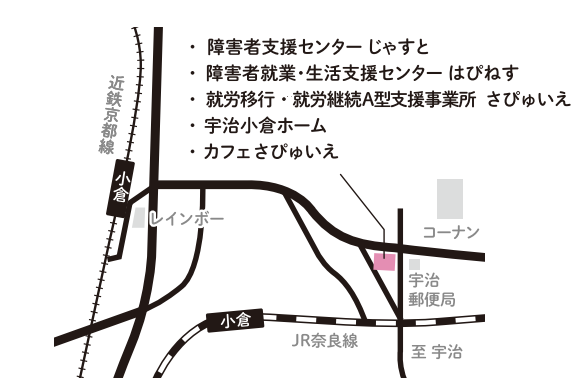
醍醐エリア



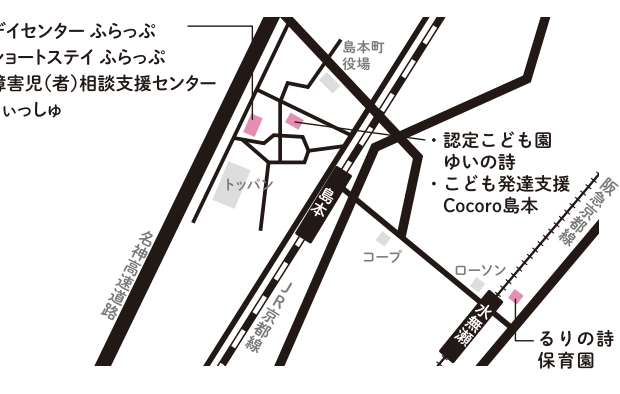
中京区エリア



宇治エリア



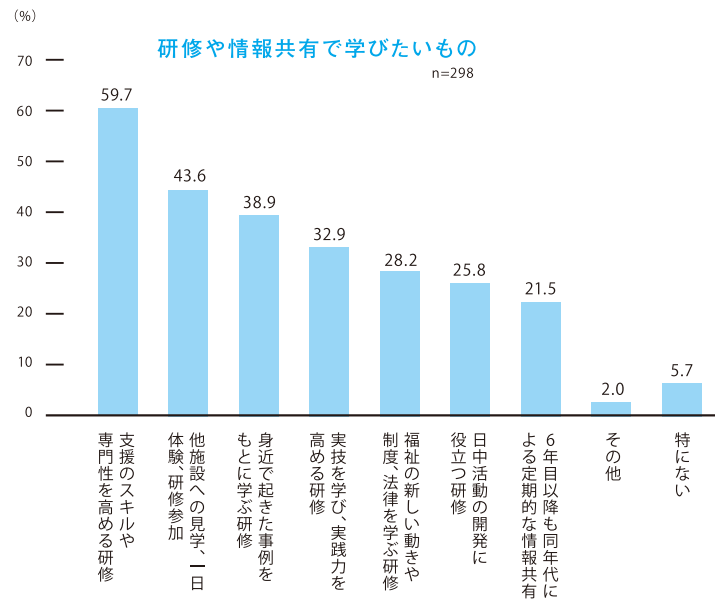
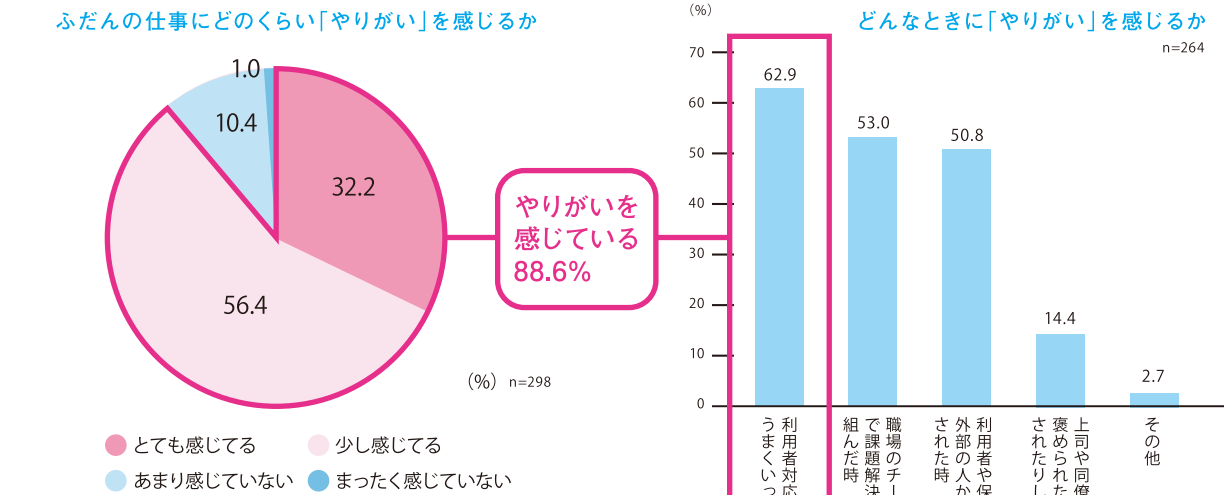
島本町エリア



職員意識調査に見る南山城学園

創立60周年を前に、全職員を対象に意識調査を実施しました。

ふだんの仕事に「やりがい」を感じている職員は88.6%と高い水準にあり、どんなときにやりがいを感じるかを複数回答で聞いたところ、「利用者対応がうまくいった時」(62.9%)、「職場のチームワークで課題解決に取り組んだ時」(53.0%)、「利用者や保護者、外部の人から感謝された時」(50.8%)が上位を占めました。



また、「研修や情報共有で学びたいもの」は、「支援のスキルや専門性を高める研修」(59.7%)が最も多く、高い専門性をもって利用者様の支援にあたることにやりがいを感じている職員像が浮かび上がります。

当法人では、こうした職員の思いに応え、その能力と可能性を最大限に発揮できる環境づくりを行い、次の10年を歩んでまいります。

令和6(2024)年度 法人決算報告

貸借対照表		事業活動計算書	
流動資産	2,913,361	【サービス活動増減の部】	
固定資産	6,594,817	サービス活動収益計(1)	4,765,922
資産合計	9,508,179	サービス活動費用計(2)	4,362,476
流動負債	520,554	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	403,446
固定負債	424,729	【サービス活動外増減の部】	
純資産の部	8,562,895	サービス活動外増減差額(6)	△1,146
負債及び純資産合計	9,508,179	経常増減差額(7)=(3)+(6)	402,300
		【特別増減の部】	
		特別増減差額(10)	△26,579
		当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	375,720
		前期繰越活動増減差額(12)	5,175,138
		次期繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	5,550,859